

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520006

研究課題名（和文） 景観形成における倫理的価値構造に関する研究

研究課題名（英文） Study on the Ethical Value Structure in Construction of Landscape

研究代表者

桑子 敏雄（KUWAKO TOSHIO）

東京工業大学・大学院社会理工学研究科・教授

研究者番号：30134422

研究成果の概要：

景観生成の倫理（行為規範）とその理論的根拠に関する本研究においては、景観倫理の基礎に、安全、環境、地域の活性化などの多様な価値の対立の克服が求められるということ、その克服のためには、地域空間を「包括的ウェルネス」の概念で捉えること、また、とくに地域共同管理空間（ローカル・コモンズ）を再生することの必要性を明らかにした。とくに、景観形成行為では、関係者の「意見の理由」とその「理由の来歴」の把握が必要であるとの認識を得た。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,600,000	0	1,600,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	570,000	4,070,000

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：哲学 哲学・倫理学

キーワード：景観倫理，価値構造，景観法，倫理学，景観政策，市民参加，社会基盤整備

1. 研究開始当初の背景

日本各地で景観計画の策定が進むなか、景観生成の倫理（行為規範）とその理論的根拠の研究が求められていた。本研究は、いわゆる環境倫理の枠内に収まらないものとしての景観倫理の研究であり、まちづくり、河川整備、道路整備など、社会基盤整備を進める事業主体および関係住民・一般市民がどのような規範意識をもって事業にかかわるべきかを問うことを課題とした。

2. 研究の目的

景観をめぐる対立・紛争が利害関係者のモラルの問題として議論されるようになっていくことから、

- (1) 景観を再編しようとする行為の評価の問題
- (2) 景観の価値に対する立場・意見の対立・紛争およびその解決・合意形成の問題

の二つの面から考察する。本研究では、この二つの面を統合的に捉える視点を「景観倫理」と規定し、その理論的な基礎を研究するとともに、理論的な基礎に支えられた景観紛争の解決のための倫理をも提案する。

3. 研究の方法

本研究は理論的考察とフィールドワークによる研究とを組み合わせる。理論面では、環境倫理と社会的合意形成に関する研究成果を「景観」と「価値構造」というキーワードで統合することを試みる。また、フィールドワークでは、農村景観、河川景観、道路景観など社会基盤整備で課題になっている景観の問題について、多様な地域の現地視察・調査と、それらの地域で事業を進める行政担当者や地域住民との意見交換によって、景観形成の現場に即した研究成果となることを目指した。

4. 研究成果

①行政単位、すなわち、国土交通省、農林水産省（本省、林野庁、水産庁）、環境省などの国官庁、都道府県、市町村などの地方自治体といった行政組織、および地域住民や一般市民のそれぞれが空間認識の違いをもっていること、景観形成のモラル構築は、これらの意見の違いを関係者が相互に認識することから始めなければならないということが明らかになった。

②河川の改修事業では、治水、環境、まちの活性化とともに、景観の保全が大きな課題となっており、これらの価値が相互にどう対立しているか、また、これらの価値をどのようにすれば統合することができるかが課題になっているということが明らかになった。

③景観形成の行動原理として、「地域社会の活性度（ウェルネス）」の概念、とくに自然環境と社会環境の調和を実現する地域社会の活力としての「包括的ウェルネス」の概念を得た。また、長野県山ノ内町志賀高原での市民による自然再生活動、長野県上田市西塩田地区の舌喰池での住民主体の景観整備事業などとの意見交換を通して、この概念の重要性を確認した。

④「包括的ウェルネス」とならんで、特に「ローカル・コモنزの包括的再生」の概念を得た。地域社会による伝統的な入会空間の保全・管理のプロセスには、自然環境の持続可能性のみならず、地域社会の持続可能性が組み込まれている。景観形成においては、こうしたローカル・コモنزとしての地域空間をどう維持し、あるいは、発展させてゆくかと

いう課題が存在する。こうしたローカル・コモنز再生のためには、地域社会を含む多様な人々の参加と行政との開かれた話し合いを含む社会的合意形成をプロジェクト・マネジメントの技術によってデザインすることが有効であることを示した。

④「景観形成にかかわる社会的合意形成」に関しては、景観整備における意見の対立・紛争を解決するためには、関係者のもつ意見の理由の認識とならんで、「意見の理由の来歴」を明らかにし、これを踏まえた合意形成プロセスを構築することの重要性に関する認識を得た。

⑤農村景観の整備については、伝統的な日本の農業のもつ意味について、地域の「空間の履歴」から読み解くことの必要性を明らかにした（なお、「空間の履歴」の概念については、著書『空間の履歴』のなかで概略を示した。）

⑥社会的合意形成に関しては、その研究のあり方については、普遍性・客観性という、いわゆる科学的基準で評価することは難しく、むしろ、理論・技術と経験が融合した現場性・当事者性のもとでの理解が重要であることを示した。

⑦景観は、地域の風土性に大きく依存する。と同時に、景観に対する意識、および空間について論じる値域の人びとの傾向性そのものが風土性に依存している。したがって、景観に関する対立・紛争とその解決の方法の考察に当たっても、地域の風土特性を考慮する必要がある。この点を多様な地域との意見交換によって明らかにすることができた。

⑧景観形成は、地域に暮らす人々が地域の空間の意味に気づき、その価値を再確認することが必要である。この意味で、景観認識のためには、空間の価値構造の認識が前提となる。この空間の価値構造認識を「ふるさと見分け」として整理し、①空間の構造の把握、②空間の履歴の掘り起こし、③人びとの関心・懸念の理解、の3点から構成した。この「ふるさと見分け」の方法論は、さまざまな地域の人びとのとの意見交換のなかで、地域性の認識に大きく役に立った。

また、この方法によって、景観にかかわる人びとの行為の構造とその評価のための枠組みを得ることができた。さらに、この「ふるさと見分け方」は、福岡県行橋市の杵尾海岸保全活動の理論的根拠となった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計 12件)

①桑子敏雄, 社会基盤整備をめぐる社会的合意形成, 海岸, 48[2], 36-42, 2009, 査読無

②桑子敏雄, 風土の視点からの河川計画, 計画行政, 31[2], 29-36, 2008, 査読無

③桑子敏雄, 官民合意形成論, 測量, 58[7], 27-30, 2008, 査読無

④桑子敏雄, 現代日本の合意形成, TASC MONTHLY, 388, 4-8, 2008, 査読無

⑤豊田光世, 山田潤史, 桑子敏雄, 「佐渡めぐり移動談義所」によるトキとの共生に向けた社会環境整備の推進に関する研究, 自然環境復元研究, 4, 51-60, 2008, 査読有

⑥桑子敏雄, 感性哲学の展開: 感性的体験と川づくり・まちづくり, 感性哲学, 7, 24-30, 2007, 査読無

⑦桑子敏雄, 水土持続の論理と倫理, 土地改良, 257, 22-26, 2007, 査読無

⑧桑子敏雄, 景観の価値と合意形成, 環境アセスメント学会誌, 5 [1], 24-30, 2007, 査読有

⑨桑子敏雄, 環境政策の思想と社会的合意形成, 杭州師範学院学報, 28 [6], 28-30, 2006 査読有

⑩桑子敏雄, 社会的合意形成と風土の問題, 公共研究, 3[2], 114-122, 2006, 査読無

⑪桑子敏雄, 日本の風土と農村空間の整備—ふるさとの見分け方, 農業と経済, 72 [6], 23-31, 2006, 査読無

⑫桑子敏雄, ダム建設と社会的合意形成, 土木施工, 47 [5], 28-31, 2006, 査読無

[学会発表] (計 10件)

①桑子敏雄, 吉武久美子, 人を対象にした研究行為の倫理性とは何か, 日本生命倫理学会第20回年次大会, 2008. 11. 29, 九州大学

②桑子敏雄, Consensus Building Towards Integration of Values in Flood Control, Environment and Landscape, XXII World Congress of Philosophy, 2008. 8. 2, Seoul National University

③吉武久美子, The ethical action principle

in decision-making: From the principle of autonomy to the principle of consensus, XXII World Congress of Philosophy, 2008. 8. 2, Seoul National University

④桑子敏雄, 吉武久美子, 島谷幸弘, 包括的ウェルネスの思想, 第4回日本感性工学会春季大会, 宝塚造形芸術大学, 2008. 3. 7, 宮城大学

⑤桑子敏雄, 社会基盤整備研究の現場性と当事者性, 第4回日本感性工学会春季大会, 宝塚造形芸術大学, 2008. 3. 7, 宮城大学

⑥豊田光世, 山田潤史, 桑子敏雄, 「佐渡めぐり移動談義所」で展開するトキ野生復帰の促進と地域活性化の融合, 第4回日本感性工学会春季大会, 宝塚造形芸術大学, 2008. 3. 7, 宮城大学

⑦桑子敏雄, 倫理原則と意思決定—「いのち」へのパースペクティブ, 第19回日本生命倫理学会, 2007. 11. 11, 大正大学

⑧桑子敏雄, ふるさとの見分け方—コモンズの喜劇—, 2007年度日本建築学会大会都市計画部門, 2007. 8. 30, 福岡大学

⑨桑子敏雄, 科学技術と「生」の質—哲学の観点から—, 2006年度日本公共政策学会10周年記念大会, 2006. 6. 10, 明治大学

⑩桑子敏雄, 地球環境問題の中の<ローカルな知>, 日本社会教育学会六月集会, 2006. 6. 4, 筑波大学

[図書] (計 5件)

①西條美紀, 野原佳代子, 日下部治, 桑子敏雄, 大塚裕子他(14人中4番目), 培風館, 科学技術コミュニケーション入門, 2009, 38-53

②後藤春彦, 桑子敏雄他(17人中8番目), 日本建築学会, 生活景, 2009, 118-127

③桑子敏雄, 久野節二, 大村哲弥他(25人中1番目), 朝倉書店, 都市・建築の感性デザイン工学, 2009, 2-8

④野家啓一, 卞崇道, 尾関周二, 桑子敏雄他(16人中14番目), 昭和堂, 現代に挑む哲学, 2008, 184-195

⑤佐藤悦子, 桑子敏雄他(3人中2番目), 書肆草茫々, ふるさとの川 城原川—ダムに拠らない治水を探る, 2007, 150-156

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桑子 敏雄 (KUWAKO TOSHIO)

東京工業大学・大学院社会理工学研究科・教授

研究者番号：30134422

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

吉武 久美子 (YOSHITAKE KUMIKO)

新潟県立看護大学・准教授

研究者番号：90468215